

聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

第5章 ソロモンとイスラエル後期のリーダーたちの祈り⑦



エズラ

エズラは、紀元前457年にバビロンからエルサレムに帰還したユダヤ人たちにとっての、信仰上のアドバイザーでした。そのような立場にあった人物として、彼は人々のために、驚くべき「告白の祈り」を捧げています。

注解者の一人はエズラ記9章のエズラの祈りを、イスラエルの徹底的な敗北と耐え難い重荷の中から絞り出された「非常に絶望的な発言」と描写しています。そこには願いと呼べるものは何も見出すことはできませんが、身代わりの告白がなされています。これは、記録されている中でも最も深い告白の一つであり、激しい苦難について語るものとなっています。

夕方ささげ物の時刻になって、私は気を取り戻し、着物と上着を裂いたまま、ひざまずき、私の神、主に向かって手を差し伸ばし、祈って、言った。

「私の神よ。私は恥を受け、私の神であるあなたに向かって顔を上げるのも恥ずかしく思います。私たちの咎は私たちの頭より高く増し加わり、私たちの罪過は大きく天にまで達したからです。私たちの先祖の時代から今日まで、私たちは大きな罪過の中にありました。私たちのその咎のため、私たち… は、よその国々の王たちの手に渡され、剣にかけられ、とりこにされ、かすめ奪われ、恥を見せられて、今日あるとおりです。」

「事実、私たちは奴隷です。しかし、私たちの神は、この奴隷の身の私たちを見捨てることなく、かえって、ペルシャの王たちによって、私たちに恵みを施し、私たちを生かして、…」

「今、こうなってからは、何と申し上げたらよいのでしょうか。私たちの神よ。私たちはあなたの命令を捨てたからです。あなたは、あなたのしもべ、預言者たちによって、…命じておられました。」

「私たちの悪い行いと、大きな罪過のために、これらすべてのことが私たちの上に起こって後、一事実、私たちの神、あなたは、私たちの咎の受けるべき刑罰よりも軽く罰し、このようにのがれた者を私たちに残してくださいました— … 私たちは再び、あなたの命令を破って、… よいのでしょうか。あなたは私たちを怒り、ついには私たちを絶ち滅ぼし、生き残った者も、のがれた者もないよ

うにされるのではないのでしょうか。イスラエルの神、主。あなたは正しい方です。まことに、今日あるように、私たちは、のがれた者として残されています。ご覧ください。私たちは罪過の中であなたの御前におります。このような状態で、だれもあなたの御前に立つことはできないのに。」(エズラ9:5-7、9-11、13-15)

不従順のゆえに神の裁きをもたらされた際の、このような告白は、絶望的に思われる状況に対して神が定めてくださった救済策にほかなりません。心からの告白こそが、憐れみの扉を砕いて開くのです。



エズラのこの祈りの例からは、神に悔い改めの中で近づくという点で、いくつか重要な教訓を学ぶことができます。

1. 彼は神に対し、高慢さではなく**究極の謙遜**と悲しみをもって近づいています。それは着物と上着を裂いていることに表現されています(9:3)。
2. 彼は、ひざまづくことによって、**完全な服従と従順**を示しています(5節)。
3. 彼は、目の前の抗し難い状況に対しては、いかなる人間的な方法も妥当ではないということを理解していました。同胞は、正義の神の正当な怒りを招いてしまっていました。彼らにとっての**唯一の希望は、同じ神からの、受けるに価しない憐れみ**でした。そこで、真摯な先達と同様(出9:29、1列王8:22を参照)、彼は、天の恵み深い主なる神に向けて両手を広げるのでした(5節)。

祈りは人の内なる状況を反映するとはいえ、人の取る態度は、祈りそのものより、祈りの結果に左右されるものです。エズラの燃えるような恥の思いは明らかです。「私は恥を受け、…顔を上げるのも恥ずかしく思います」(9:6)。何という非難でしょうか。多くの人々が、良心が麻痺してしまって恥じるという機能が完全に失われてしまい、恥じるということをもはや忘れてしまった、私たちの世代のような人々に対する非難です(エレミヤ6:15、8:12を参照)。

エズラのここでの祈りは、告白であるとともに、「認識の祈り」と呼ぶこともできます。彼は5つのことを認識しています。

1. 「私たちの先祖の時代から」のイスラエルの継続的な罪は、「よその国々の王たちの手に渡され、剣にかけられ、とりこにされ、かすめ奪われ、恥を見せられ」(7節)という結果をもたらしてきた。
2. 神はその恵みにより、イスラエルに残された民を保ってきてくださった。これは、束縛の中にあつた

彼らにご自身の優しさを示すものであるとともに、エルサレムに神の「宮を再建させ」るための新しい命を与えてくださるものであった(8-9)。

3. 神の忍耐は、甚だしく不従順であった人々を、当然に予期されるほどまでには罰しておられないという点に示されている。また、その優しさは、彼らが受けるに価しないほどの解放をお与えになっているという点に示されている(10-13節)。
4. イスラエルが再び、神の命令を破るようなことがあれば、神の正義は即座に、その不従順な者たちを滅ぼすことになる(14節)。
5. イスラエルはその罪のゆえに、弁解する内容も主張する内容も無かった。彼らは神の臨在の前に立つ価値のない者たちであった(15節)。

このため、エズラの祈りは、叱責に価する行為を行なっている不従順な個人であれ、エズラのような自らの国や民の代理として神に近づく無私のとりにし手であれ、真に悔いる人々のための一つの型となっているのです。





質問

- 1 神に従わなかったゆえに絶望的と思われる状況であっても、そこから私たちを救ってくれるものは何ですか？
- 2 エズラの祈りから、神に悔い改めて近づくことについて3つの教訓が挙げられています。それは何ですか？ あなたは其中でどの教訓を実践する必要があると思いますか？
- 3 エズラは神の前に深く恥じ入って祈りました。あなたは神の前に強く恥を感じつつ、祈ったことがありますか？ 祈った結果、どのようなことを悟り、体験しましたか？
- 4 エズラの祈りは認識の祈りと呼ぶことができます。彼は祈りの中で5つのことを認識しています。それはどのようなことですか？ その中に、あなたもエズラのように認識すべき事柄がありますか？
- 5 エズラはこれまでの神の恵みを認めています。あなたが歩んできたなかで、どのようなことを神の恵みと認識していますか？ また、エズラは罪に対する神の忍耐深さを認めています。神は私たちに対してどういう点で忍耐深いと思いますか？
- 6 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？
どんなことを実践したいと思いますか？



祈り

天の父なる神さま。あなたは真に悔い改める者を生かし、回復させ、それだけではなくあなたのために再び用いて下さる方です。私が、あなたのあわれみを求めるしかない状況を素直に認めて、謙遜にあなたに近づくことができますように。